

施策マネジメントシート

基本施策名	21魅力あるまちづくりの推進	施策 統括課	国立駅周辺 整備課	氏名	関野 達也
政策名	7都市基盤	主な 関係課	富士見台地域まちづくり担当、南部地域まちづくり課、まちの振興課、道路交通課、都市計画課、環境政策課		

1 施策の目的と指標

① 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等
・市民 ・事業者 ・市内全域

② 施策の目的
それぞれの地域の特性や魅力を活かした都市機能の整備が行われ、恵まれた自然と歴史ある文化遺産と調和しつつ、利便性や快適性、防災面からみた安全性を兼ね備えたまちづくりを進めます。

③ 対象指標 (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 人口	人
イ 事業者数	事業所
ウ 市域面積	km ²
エ	

④ 成果指標 (意図の達成度の指標) 数字は記入しない

名称(展開方向ごとに記載)		単位
1	ア 国立駅周辺まちづくり事業の進捗率	%
	イ 旧国立駅舎及びその周辺で活動に参加した人数	人
2	ア 富士見台地域の居住人口	人
	イ	
3	ア 国立市南部地域整備基本計画における南部市街地整備の進捗率	%
	イ 狭あい道路拡幅整備の申請件数	件
	ウ 南部地域における町名地番整備率	%
	エ 南部地域が魅力的だと思う市民の割合	%
4	ア JR南武線連続立体交差事業に伴う市街地整備の事業化進捗率	%
	イ	

2 第2次基本計画期間(令和2～令和9年度)内における取組内容

施策の展開方向		目的	手段(具体的な取組内容)
1	回遊性のある国立駅周辺地域のまちづくり	文化財である旧国立駅舎を中心とする国立駅周辺地域を、回遊性のある空間とすることにより、国立市の魅力を高めます。	◆国立駅南口の駅前広場整備、国立駅周辺の道路整備等を進めることにより、だれもが歩いて街を楽しめる回遊性のある空間を創出します。 ◆市民に必要な機能を有する公共施設、旧国立駅舎周辺の広場空間及び円形公園等の整備を進め、それらを中心に「市民が集い、来訪者を迎え、にぎわいと交流のある」空間を創出します。 ◆再築された旧国立駅舎をまちの魅力発信の拠点として活用し、回遊性を高め、まちの活性化につながるよう施設運営を行います。
2	多世代が安心して暮らせる活力に満ちた富士見台地域のまちづくり	富士見台地域を、少子高齢社会に対応した、だれもが暮らしやすい理想的な住空間とし、多世代が安心して暮らせる地域とすることにより、国立市の魅力を高めます。	◆地域住民、UR都市機構、東京都と協働して、まちづくりの方向性を示した「国立市富士見台地域まちづくりビジョン」の実現に向けて取り組みます。 ◆富士見台地域における、公共施設の再配置の検討を行います。 ◆矢川公共用地(都有地)を活用して複合公共施設を整備し、施設を拠点に、周辺地域を巻きこんだまちのにぎわい創出に取り組みます。
3	歴史・文化・自然環境と調和した南部地域の基盤整備	市街地整備の事業化に向けた調査・検討を行うとともに、区画道路における歩行者・自転車通行の安全性確保や消火活動の円滑化などを目指して、既存道路の拡幅整備により狭あい道路を解消します。 また、南部地域の特徴である歴史・文化・自然環境を保全することで、魅力あるまちづくりを推進します。	◆南部地域を形成する大きな要素である歴史・文化、環境、農地等の自然環境の保全に配慮した南部地域のまちづくりを計画的に推進していきます。 ◆市街地を整備するため、土地区画整理事業や市街地再開発事業等による基盤整備を推進するとともに、市の財政負担や関係市民の経済的負担を考慮して、整備手法の見直しや地区計画等の制度を活用したまちづくりも検討します。 ◆「南部地域狭あい道路整備方針」に基づき対象路線の拡幅整備を進めるとともに、地権者からの用地寄付等にかかる諸費用に対して市が支援することにより、南部地域における計画幅員4m以上道路の整備を計画的に推進します。 ◆平成26(2014)年4月に改正した「国立市町界町名整理に関する基本方針」に基づき、分かりにくい町名や地番の整理改善作業を計画的に推進します。
4	JR南武線の連続立体交差と連動したまちづくり	JR南武線連続立体交差事業により、安全な歩行・交通環境の整備、防災機能の向上を図るとともに、駅周辺地域のまちづくりやJR南武線と交差する都市計画道路及び都市計画公園の整備を進め、安全で快適なまちづくりを進めます。	◆踏切渋滞や踏切事故、鉄道による地域の分断などを解消し、人にやさしいまちづくりを実現するため、東京都、隣接市、鉄道事業者等の関係者と連携して、JR南武線連続立体交差事業による鉄道と道路との立体交差化を促進します。 ◆JR南武線と道路との立体交差化等により踏切事故や踏切遮断による交通渋滞を解消し、より安全で快適な歩行空間を整備します。 ◆谷保駅及び矢川駅の周辺地域は、土地区画整理事業や市街地再開発事業等による基盤整備を検討するとともに、谷保駅周辺では踏切道の拡幅等による歩行・交通環境の整備など、矢川駅周辺ではJR南武線と道路との立体交差化等に伴う安全で快適な歩行・交通環境の整備などを進めます。 ◆JR南武線連続立体交差事業にあわせて、都市計画道路3・3・15号線、3・4・5号線及び3・4・14号線の整備を推進します。 また、矢川上土地区画整理事業の見直しに伴い、区画整理区域に計画区域が含まれている矢川上公園の拡充整備を進めます。

3 総事業費・指標等の実績推移と目標値、実績状況把握

			単位	数値区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R9年度					
対象指標			ア	人	見込み値						76,098	76,106	75,972	目標達成度				
				実績値	75,054	75,466	75,932	75,984	76,282	76,423								
			イ	事業所	見込み値							2,657	2,657	2,657				
				実績値	2,657	2,657	2,657	2,657	2,657	2,657								
			ウ	km ²	見込み値						8.15	8.15	8.15	達成・ 未達成	前年度 比較			
				実績値	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15								
			エ		見込み値													
				実績値														
成果指標	展開方向1	ア	%	成り行き値							76.7	76.7	76.7	達成	向上			
				目標値	56.5	60.3	71.2	73.7	76.1	76.7	77.9	83.1	100					
				実績値	56.5	60.3	71.2	73.7	76.1	76.7								
				基本計画における指標の説明又は出典元			「国立駅周辺まちづくり基本計画」でまとめた事業の事業費ベースの進捗率を基に設定しました。											
	イ	人	成り行き値								412,767	412,767	412,767	達成	向上			
			目標値	0	300	500	750	100,000	100,000	380,000	380,000	420,000						
			実績値		373	361	351	378,456	412,767									
			基本計画における指標の説明又は出典元			令和2年度の実績から10%程度増加させることを目標としました。												
	展開方向2	ア	人	成り行き値	16,983	16,781	16,565	17,615	17,501	17,358	17,240	17,110	17,000	未達成	低下			
				目標値	17,200	17,200	17,200	17,200	17,200	18,000	18,000	18,000	19,000					
				実績値	17,430	17,638	17,690	17,615	17,636	17,699	17,594							
				基本計画における指標の説明又は出典元			暮らしの魅力を高めることにより、現在の人口を増やすことを目標としました。各年1月1日現在(R3年度実績:R3.1/1人口)											
	イ		成り行き値															
			目標値															
			実績値															
			基本計画における指標の説明又は出典元															
	展開方向3	ア	%	成り行き値								92.0	92.0	92.0	達成	向上		
				目標値	71.6	76.4	81.3	86.1	88.2	90.4	92.5	94.6	100.0					
				実績値	66.7	77.1	85.7	85.9	85.9	92.0								
				基本計画における指標の説明又は出典元			平成26年に策定した国立市南部地域整備基本計画における市街地整備計画の完了を目指し、目標値を100%としました。											
イ		件	成り行き値								30	30	30	達成	向上			
			目標値				6	10	14	18	22	38						
			実績値			1	5	18	30									
			基本計画における指標の説明又は出典元			平成29年度に策定した南部地域狭あい道路整備方針に基づき、年4件の対象路線の整備を目標としました。												
ウ		%	成り行き値								66.4	66.4	66.4	達成	向上			
			目標値	48.8	53.1	57.3	62.5	66.4	66.4	70.0	70.0	75.2						
			実績値	49.1	54.1	59.3	62.5	62.5	66.4									
			基本計画における指標の説明又は出典元			平成26年に策定した国立市南部地域整備基本計画における町名地番整理事業を推進していくことを目標としました。												
エ	%	成り行き値											未達成	向上				
		目標値		46.0	49.3	47.4	49.4	51.4	53.4	55.4	63.4							
		実績値	42.8	41.0	45.4	40.2	44.8	46.1										
		基本計画における指標の説明又は出典元			国立市南部地域整備基本計画で掲げる南部地域の将来像の実現を目指し、年2ポイントの上昇を目標としました。													
展開方向3	ア	%	成り行き値							0.0	0.0	0.0	達成	維持				
			目標値				0.0	0.0	0.0	0.0	46.2	81.5						
			実績値				0.0	0.0	0.0									
			基本計画における指標の説明又は出典元			JR南武線連続立体交差事業に連動した市街地整備の事業化を目標としました。												
イ		成り行き値																
		目標値																
		実績値																
		基本計画における指標の説明又は出典元																
事務事業数			本数															
施策コスト	事業費内訳	国庫支出金	千円															
		都道府県支出金	千円															
		地方債	千円															
		その他	千円															
		一般財源	千円															
		事業費計(A)	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
	人件費	延べ業務時間	時間															
	人件費計(B)	千円																
トータルコスト(A)+(B)			千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					

4 施策の成果指標実績値に対する評価

(1) 施策全体の成果実績目標達成度 A(高度に達成)～E(ほぼ未達成)

B:目標をおおむね達成した

(2) 時系列比較(過去3ヶ年の比較) A(かなり向上)～E(かなり低下)

B:成果がどちらかと言えば向上した

(3) 上記(1)(2)の理由・背景として考えられること(数値で表せない定性的評価もあれば記載する)

【展開方向1】
前年度と同様、個別事業の整備が進んでいる。一方で、状況の変化により、さらなる協議検討が必要な事業も生じている。
【展開方向2】
富士見台地域の人口及び世帯数は、各地区共に微増している。要因として、近年、集合住宅の建設が見られること、さらには都営矢川北アパートの建替え後の戻り入居も進んでいることが考えられる。
【展開方向3】
狭あい道路整備については、順調に整備が進んでいる。
谷保4丁目の町名地番整理を実施した。
【展開方向4】
南武線連立事業に伴う市街地整備については、準備段階の取組を計画的に進めている。

5 施策の現状 ※必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？

【国立駅周辺地域】

- ・平成21年11月に策定した「国立駅周辺まちづくり基本計画」に基づき、国立駅周辺における各事業を進めている。
- ・平成30(2018)年5月に国立駅前にたち・こくぶんじ市民プラザを開設し、令和2(2020)年2月に旧国立駅舎が再築され、4月に開業した。
- ・平成31(2019)年3月に国立駅北口駅前広場、令和2(2020)年3月に都市計画道路3・4・10号線(南工区)、西1号線延伸部、令和4(2022)年2月に北第1号線の道路築造工事が完了し、供用開始した。

【富士見台地域】

- ・国立富士見台団地は創設から50年が経過し、他UR団地と同様に、高齢化率の上昇、空室率の上昇等の課題が生じている。また、東京都により、都営矢川北アパートの建て替え事業が進んでおり、高齢化対策とともに建て替え後の団地で安心して暮らすことができる環境の整備が課題となっている。
- ・平成29(2017)年度策定の「国立市富士見台地域まちづくりビジョン」の実現を目指し、令和3年5月「国立市富士見台地域重点まちづくり構想」を協働まちづくりの手引書として策定した。
- ・都営矢川北アパートの建て替えに伴い都と協定書が結ばれ「くにたち子どもの夢・未来事業団」が運営する矢川保育園は令和3(2021)年4月に開設した。「くにたち未来共創拠点矢川プラス」は令和3年7月より工事に入り、令和5(2023)年4月の開設を予定している。

【南部地域】

- ・平成26(2014)年度に策定した国立市南部地域整備基本計画は、平成30(2018)年度に計画の中間見直しを行った。
- ・南部地域における市街地整備計画の対象地域では、年々住宅が増加していることから、面的整備に伴う地域住民の合意形成等がより困難な状況になっている。
- ・町名地番整理事業は計画的に実施しており、新地番に整理された地域が着実に増えている。

【JR南武線連続立体交差事業】

- ・JR南武線連続立体交差事業は、事業主体である東京都が平成30(2018)年度に国より新規着工準備採択を受け、現在、都において鉄道立体化の構造形式や施工方法、交差する都市計画道路の構造等の検討を進めている。

(2) この施策に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

【国立駅周辺地域】

- ・国立駅周辺整備事業に関しては、各事業に対し、様々な意見がある。

【富士見台地域】

- ・国立富士見台団地の住民、UR都市機構、それぞれが考える今後の団地のあり方には違いがある。
- ・建替が行われても、都営矢川北アパートの住民が安心して暮らせるよう、求める声がある。
- ・矢川プラスについては、日常的に子どもから高齢者まで多世代が過ごせる居場所づくりの観点から、市民より様々な意見と期待が寄せられている。

【南部地域】【JR南武線連続立体交差事業】

- ・南部地域の優先整備路線や狭あい道路の整備、甲州街道の歩道拡幅、町名地番の整理、南武線連続立体交差事業の早期推進に関する要望がある。

(3) この施策に関して他自治体の取組状況と比較して国立市の取組状況はどうか？

【国立駅周辺地域】

- ・JR中央線の他駅(他自治体)が大型開発を進める一方、国立駅周辺については、大正末期に民間会社により開発された歴史、景観及び文化などを大切にしながらまちづくりを進めている。

【富士見台地域】

- ・富士見台地域のまちづくりは、市民・行政・専門家が協働で進めてきた。市民の生活実感の視点を中心に、行政施策の視点、専門的な視点(分析・評価)を加える進め方は、全国的にも先進的と評価されている。

【南部地域】【JR南武線連続立体交差事業】

- ・南武線連続立体交差事業に向けて、鉄道立体化に伴うまちの将来像や方針を示す「南武線沿線まちづくり方針」を令和3(2021)年度に策定した。

同じ沿線市である立川市においても、令和3(2021)年度に「西国立駅周辺地域まちづくり構想」を策定した。

(4) 施策の具体的な取組状況

3年度の取組状況	4年度の取組予定
・国立駅周辺道路等整備事業の内、北第1号線の道路築造工事及び東第1号線の電線共同溝整備事業を行った。 ・旧国立駅舎を適切に管理運営するとともに、まちの魅力発信拠点として活用した。 ・旧国立駅舎の将来的な管理運営方法について研究を進めた。 ・旧国立駅舎運営連絡会で旧国立駅舎の管理運営・活用とともに旧国立駅舎周辺のまちの姿について議論した。 ・東日本旅客鉄道(株)との用地交換後に取得する旧国立駅舎東西用地や円形公園に関し、東西広場を暫定的に開放するとともに市民アンケートを実施し、その結果、令和4年2月に整備の方向性を示した整備基本方針(素案)を策定した。 ・用地交換後に東日本旅客鉄道(株)が開発する建物に市が整備を予定している子育て支援施設について、令和3年11月に整備の方向性を示した「国立駅南口子育て支援施設整備方針」を策定した。 ・市民に開かれた検討の場「富士見台ミーティング(12月)」を開催、重点PJ07UR国立市富士見台団地をモデルとした支え合いの仕組みづくりプロジェクトにおいて、居場所お試し実践を実施、UR都市機構とのまちづくり推進に関する連携協定を締結した。 ・矢川プラスの建設工事業務を行うとともに、令和5(2023)年4月の開設に向けた管理運営面の検討を子ども家庭部とともに進めた。 ・狭あい道路の整備方針に基づき、狭あい道路の拡幅整備を実施した。 ・南武線連続立体交差事業に伴い、鉄道が立体化された後のまちの将来像や方針を示すため、「南武線沿線まちづくり方針」を策定した。 ・矢川上土地区画整理事業の見直しに向けた調査・検討、南武線沿線まちづくりの検討を行った。 ・谷保4丁目の町名地番整理を実施した。	・国立駅周辺道路等整備事業の内、東第1号線の電線共同溝整備事業を行う。 ・旧国立駅舎を適切に管理運営するとともに、まちの魅力発信拠点として活用する。 ・旧国立駅舎の指定管理者制度への移行に向け、具体的な検討を進める。 ・旧国立駅舎運営連絡会で旧国立駅舎の管理運営・活用とともに旧国立駅舎周辺のまちの姿について議論する。 ・用地交換契約の締結を目指し、東日本旅客鉄道(株)と協議を進める。 ・東日本旅客鉄道(株)との用地交換後に取得する旧国立駅舎東西用地や円形公園の整備の方向性を示した整備基本方針を策定し、デザインアイデアコンペを開催する。 ・用地交換後に東日本旅客鉄道(株)が開発する建物に市が整備を予定している子育て支援施設について、基本設計及び実施設計を進める。 ・構想に示した重点プロジェクトを推進するうえで、市民に開かれた検討の場「富士見台ミーティング」を継続的に開催し、議論を重ねていく。また、公共施設の再編を軸とした重点エリアについても庁内連携体制で検討していく。 ・令和5年度矢川プラスオープンに向け、関連各課と調整を行うとともに、開設準備を進める。 ・狭あい道路の整備方針に基づき、狭あい道路の拡幅整備を進める。 ・「南武線沿線まちづくり方針」に基づき、矢川駅周辺整備などの調査・検討を進める。 ・谷保駅周辺整備の検討を行う。 ・矢川上土地区画整理事業の見直しに向けた調査・検討を引き続き進める。 ・南部地域整備基本計画の改定に向けた調査・検討を行う。

6 3年度の評価結果 ※必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策の全体総括(成果実績やコスト、見直しを要する事務事業等)※基本的に展開方向ごとに記載 総合基本計画に照らして評価する(目的達成のための事務事業が適切か、事務事業の実施方法は適切か)

○成果実績

- ・国立駅周辺地域においては、旧国立駅舎開業から2年が経過し、令和3年度は延べ約41万人の方が来館した。コロナ禍においても様々なジャンルのイベントを開催するとともに、市内の情報をデジタルサイネージやTwitterなどで広く周知することにより、まちの魅力発信拠点として活用した。東日本旅客鉄道(株)と締結した用地交換の合意書をもとに令和4年2月に旧国立駅舎東西の広場整備については「旧国立駅舎東西広場等整備基本方針(素案)」を、子育て支援施設については「国立駅南口子育て支援施設整備方針」をそれぞれ策定した。それらの事業を進めることにより、国立駅周辺整備の推進が図られた。
- ・市民に開かれた検討の場「富士見台ミーティング(12月)」を開催、重点PJ07UR国立市富士見台団地をモデルとした支え合いの仕組みづくりプロジェクトにおいて、居場所お試し実践を実施しコミュニティインフラの強化策に取り組み始めるとともに、UR都市機構とのまちづくり推進に関する連携協定も締結するなど、各プロジェクトを推進する機運を高めることができた。
- ・矢川プラスの建設工事において建築営繕課とともに工事管理を行い、順調な工事工程を確保した。
- ・市街地整備事業の検討、狭あい道路の整備、谷保4丁目の町名地番整理等の実施により、南部地域の将来像の実現に向けたまちづくりが進展した。

○改善余地のある事項・課題等

- ・国立駅周辺のまちづくりにおいて、東日本旅客鉄道(株)と用地交換した後の旧国立駅舎東西広場及び円形公園並びに子育て支援施設等の検討を進める必要がある。
- ・市民を含め、まちづくり関係者との合意形成が課題となってくる。引き続き丁寧な対応をとりながら、居住の安定とまちの課題(将来的な課題を含む)を踏まえたまちづくりを進めていく。

(2) 施策の3年度における総合評価

B

成果実績数値の評価(A～E)に、4(3)及び6(1)の定性的要素を加味した評価
A:目標とする成果を挙げており、社会的要請にも十分応えられている。
B:一定の成果を挙げているが、向上・改善の余地がある。
C:成果向上のため、一層の努力が求められる。
D:成果に乏しく、改善が急務である。事業の一部に見直しが必要である。
E:現状の事業では施策の目的を達成することが困難であるため、抜本的な見直しを要する。

7 施策の課題・今後の方向性 ※必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 5年度の取組方針

- ・国立駅周辺道路等整備事業を引き続き関係機関と協議を行い、順次調査、設計、工事を行っていく。
- ・旧国立駅舎を引き続き、適切に管理運営するとともに、まちの魅力発信拠点として活用する。
- ・旧国立駅舎における指定管理者制度導入に向けて、諸手続きを進める。
- ・東日本旅客鉄道(株)との用地交換後に取得する旧国立駅舎東西用地や円形公園の設計事業者を選定し、基本設計を進める。
- ・用地交換後に東日本旅客鉄道(株)が開発する建物に市が整備を予定している子育て支援施設の整備工事を行う。
- ・構想に示した重点プロジェクトを推進するうえで、市民に開かれた検討の場「富士見台ミーティング」を継続的に開催し、議論を重ねていく。また、公共施設の再編を軸とした重点エリアについても庁内連携体制で段階に応じた検討を進めていく。
- ・町名地番整理事業(矢川1丁目)、市道優先整備路線の整備を進めるとともに、日常生活に密着した区画道路では生活の利便性向上、歩行者・自転車通行の安全性確保、通行支障の改善、消火活動の円滑化、公共交通ルート拡充を目的に、新たな制度に基づく狭あい道路の解消に向けた取組を進める。
- ・新たな南部地域整備基本計画を改訂し、南部地域の将来像の実現に向けた新たな取組を展開する。
- ・南武線連続立体交差事業の進展に伴い、矢川上土地区画整理事業の見直しや、矢川駅及び谷保駅周辺のまちづくりに取り組む。

(2) 中期的な取組方針(概ね実施計画期間を想定)

- ・国立駅周辺地域を回遊性のある空間とするために、旧国立駅舎東西広場・円形公園、子育て支援施設整備など、それぞれの事業を適切に進めていく。
- ・国立駅周辺道路等整備事業については、引き続き関係機関と協議を行い、令和8年度末の完成を目指し、順次調査、設計、工事を行っていく。
- ・旧国立駅舎をまちの魅力発信拠点として活用する。
- ・「富士見台地域重点まちづくり構想」に基づき、行政を含めたまちづくり関係者が、富士見台地域まちづくりビジョンに描いたまちの将来像実現のための事業を進める。
- ・市街地整備、町名地番整理、狭あい道路の整備を推進する。
- ・南武線連続立体交差事業の進展に伴い、矢川上土地区画整理事業の見直しや矢川駅周辺まちづくりに取り組む。